

連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 追想 バレレンの世紀―渡辺京二
- 51 西風
- 59 交差点―読者の声・編集者の声



新たな信者や聖教新聞の勧誘、お布施の集金額で常に競争を強いられる女性たち。真価が問われる選挙では、壮絶な集票活動が続く。池田大作への忠誠心が最大の強みの組織だけに、その長期不在が影を落とす。(110頁)

- 98 社会・文化 ● 情報カフェセル
- 100 電力自由化という壮大な詐欺
- 102 実録 慶應病院オへ室
- 106 日本会議「アームの異様な過熱」―とにかく売れる出版界のブチ特需
- 108 AI「知能爆発」は悪夢か福音か―「人間超え」の是非を巡り議論白出
- 110 創価学会「婦人部」―最強「選挙マシン」の恐るべき実像
- 88 皇室の風―岩井克己
- 90 日本の科学アラカルト
- 92 美の艶話―齊藤貴子
- 94 本に遇う―河谷史夫
- 96 誤審のスポーツ史―中村計
- 114 マスコミ業界ばなし

● 写真提供：時事通信フォト 共同通信イメージズ 産経新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 など

3 連載(巻頭インタビュー)岩村充―円高は日本経済の害悪ではない

特別レポート

危うし米欧「大西洋同盟」

―世界秩序「守護者不在」の時代へ―

- 12 「ビッグデータ」が変えた米国選挙―次期大統領は「サイバー戦」で決まる
- 14 英国発「欧州瓦解」のシナリオ
 - 難民・紛争・金融危機の「憂鬱な大陸」
- 18 WORLD ● 情報カフェセル
- 22 米国「メディア再編」の新潮流―IT企業が旧メディアを支配する時代
- 24 原油価格「急上昇」に備えよ
 - OPEC「危うい五カ国」が引鉄に
- 28 イラク・シリアは「ミニ国家」乱立へ―イスラム国「退潮」で深まる混乱
- 30 インド経済は「乱調」必至―中銀総裁「退任」のただならぬ余波
- 32 韓国「ロツテ潰し」の苛烈―苦境の朴権恵政権がまた「国策捜査」
- 34 中国海軍「暴走」の真意
 - 西太平洋「覇権掌握」の意思表示
- 36 太平洋は「米中軍拡競争」の海に
 - 同盟国を巻き込む「火種」が拡散
- 42 連載(土着権力の研究) 鹿児島県ラ・サール人脈―「地元回帰」強める高学歴OB集団
- 44 政治 ● 情報カフェセル
- 46 にわかに「リベラル路線」の自民党―「ポスト安倍」を巡る動きが活発化
- 48 衆院解散政局「が早くも幕開け」
 - 「英国離脱」で狂った安倍カレンダ
- 52 連載(政界スキヤン)安倍「熱狂なき一強」が続く理由
- 54 外務省が隠す通商外交「大失態」
 - WTO「要職喪失」の重いつけ
- 56 自民党「金権選挙」の最近事情
 - 百億円を差配する「事務総長」の辣腕
- 58 連載(罪深きは)この官僚 鈴木敦夫(防衛省防衛政策局長)―利権屋の片棒担いだ次世代エース



「英国離脱」でプーチンの高笑い「聞こえる」。大統領が誰であれ、米国の「内向き」は強まる。西欧でも「反統合」が進めば、大西洋同盟は空洞化。米欧の自国第一主義は、ロシアや中国の無法行為を誘発する。(6頁)



英国ショックが、よたよたのアベノミクスを直撃。高支持率の源だった経済が逆回転を始めれば、世論も早晚変調をきたす。解散の大権は年内の行使を余儀なくされよう。9月の内閣改造も絡み、政局が荒れ始めた。(48頁)

- 60 ソフトバンク副社長解任の「隠し事」
 - 社長統制でも視界暗れない「孫正義」
- 62 コスモ石油の哀れな「解体シナリオ」―経産省が描く「元売り再編」最終章
- 64 みずほ「システム更新」が絶望的に
 - 完成のメドなく「四千億円」がパー
- 67 連載(クロスアップ) 網川智(東芝新社長)―会社の暴引きを託された「傍流社長」
- 68 連載(企業研究)三菱東京UFJ銀行―安泰とは程遠い、トップバンクの「窮状」
- 72 京浜急行電鉄に迫る「経営失速」―JR東の「大攻勢」に打つ手なし
- 74 経済 ● 情報カフェセル
- 78 連載(経営者東京裁判) 葛西敬之(JR東海代表取締役名誉会長)―「長期独裁体制」への病的な執着
- 80 農林中金を襲う三つの大波―「解体処分」を狙う新農水次官と官邸
- 82 J-Tと電通が露骨な「報道操作」―大メディアでは「煙草批判はタブー」に
- 84 日立製作所「原発事業」の孤立無援
 - 三菱重工・東芝「連合誕生」の悪夢
- 2期連続の減益の根は深い。国内ではマイナス金利が体力を奪い、海外では資源への融資で不良債権が大膨張。成長の柱に据えたアジア事業でも、貸出金の縮小が止まらない。三菱御三家は銀行も弱り目だ。(68頁)



2期連続の減益の根は深い。国内ではマイナス金利が体力を奪い、海外では資源への融資で不良債権が大膨張。成長の柱に据えたアジア事業でも、貸出金の縮小が止まらない。三菱御三家は銀行も弱り目だ。(68頁)